令和5年度 地域における大学振興・若者雇用創出事業評価委員会
議事要旨

日時：令和5年8月9日（水）17：45～18：45

場所：中央合同庁舎8号館7階 ABCD会議室

1. 議事

(1) 本申請枠：地方公共団体Aの審議

- ・事務局より、書面評価から現地評価までの主な論点について説明があった。
- ・地方公共団体Aから事業説明があり、その後、委員による質疑応答が行われた。
- ・質疑応答の後、審議が行われた。委員から、以下のコメントがあった。
- ・詳細まで検討できていないと感じた。もう少し詳しいところまで情報を示してもらいたい。
- ・他大学との連携も視野に入れているとのことだが、具体的にどの大学と連携するのかという具体的な話がない。
- ・一番重要なのは様々なステークホルダーのインセンティブとモチベーションをきちんと開示してほしいということ。スマートシティという非常に大きく大胆な提案なので、そこまで踏み込んで検討してもらいたい。
- ・関係者間の更なる調整が必要である。また、その調整結果については、地方公共団体Aの政策へ具体的に反映していく必要がある。
- ・ロードマップが詰まっていない。しっかり企業を巻き込んで検討した結果を示してほしい。
- ・スマートシティのようなまちづくりには、様々なステークホルダーが集まって形成されていくものであり、連携企業の参画について具体性を欠いた。最初は大学のキャンパスで実証・実装をしていくというのは構わないが、様々な企業に参加してもらい連携していくような計画が必要。これから様々な企業との連携を検討していくというのでは調整が足りていない。
- ・スマートシティ構築において無理に標準化をする必要はない。技術仕様をオープンにすることにより、他社の技術との連携が可能になる。多くのステークホルダーが集まって、地方公共団体Aを実験フィールドとし、技術仕様をオープンにするというコンセプトを打ち出すなら、それは新しいスマートシティのやり方に沿っていると思う。
- ・現地評価のときの印象から、少し前向きにとらえているが、今後しっかり調整できるのかという思いはある。
- ・首長を主宰者とする会議体を設置し、自治体として責任を負ったことによる期待は感じられるので、今後ハンズオンで支援してプロジェクトを進めていくということなら、ある程度形は整うかもしれない。
- ・現地評価のときと比べると、だいぶ不要なものが削ぎ落とされて、分かりやすくなってお

り、以前より進歩していることは分かる

- しかし、これまで採択してきた地域に比べてあまりにも連携が曖昧ではっきりしない。
- スマートシティのようなまちづくりには、連携を予定している企業以外の分野の企業とも連携する必要があり、B社の事業部門だけでは地方公共団体Aに広げていけるのか疑問である。
- B社の話を聞いても、人材が必要だという返事しかなかったので、そのあたりはしっかりと詰めていかないと厳しいと印象を持った。

以上の議論を踏まえ、地方公共団体Aの申請は、評価委員会において不採択と評価された。

以上